TEN
TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌

Vol.46
FALL 2020

特集

スモールステップを積み重ねる
ディスカッションに向けた指導

巻頭エッセイ

表紙裏　過去でもなく，未来でもなく，今を生きる　塩谷 歩波

特集

01　スモールステップを積み重ねる　ディスカッションに向けた指導
ディスカッションに向けた指導の課題と解決へのアプローチ　工藤 洋路・津久井 貴之

04　ディスカッションの土台をつくる活動　興津 紀子

06　発展的なスピーキング活動への橋渡し　中学校段階の「伝え合う」活動　永田 岳

連 載

08　実践 NEW CROWN −わたしの授業紹介−　金丸 紋子

10　英語教師のための基礎講座 小学校から見た小中接続(3) ―小中連携―　中西 浩一

11　Essay "100%?"　Mark Schwarz

11　リクツで納得! 学校英文法の「文法」 素直にhardと言えなくて (Hard to say it's hard.)　亘理 陽一

12　明日の授業と評価をブラッシュアップするQ&A　酒井 英樹

13　TEN通信 三省堂Webコンテンツのご案内

SANSEIDO

過去でもなく，未来でもなく，今を生きる

塩谷 歩波　Enya Honami

1990年生まれ。高円寺の銭湯・小杉湯の番頭兼イラストレーター。銭湯再興プロジェクト主催。早稲田大学大学院（建築学専攻）を修了後，有名設計事務所に勤めるも，体調を崩す。休職中に通い始めた銭湯に救われ，建築の図法を用いて銭湯を描いた「銭湯図解」をSNS上で発表。これが評判を呼び，小杉湯に声をかけられ番頭として働くようになる。好きな水風呂の温度は16度。

「今」の自分に正直になって，
番頭兼イラストレーターという生き方を選びました。

私は「番頭兼イラストレーター」として，昭和8年創業の老舗銭湯・小杉湯で働いている。番頭として銭湯の広報活動やPOP制作に勤しみながら，イラストレーターとして銭湯や飲食店のイラストを制作している。2019年にはイラストの書籍を出版。情熱大陸で取り上げられたこともある。きらめいて生きていると言われることもあるが，この生き方を選べたのは自分の未来と過去がなくなる経験をしたからだ。

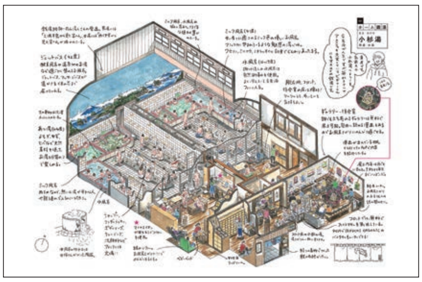
小杉湯に転職する以前は設計事務所で働いていた。インテリアコーディネーターの母と建物のイラストを描いたことから建築の世界に憧れ，早稲田大学建築学科に入学。大学院修了後は建築家を目指して有名設計事務所の門を叩いた。夢への一歩を踏み出せた喜びから張り切って仕事をしたが，働き始めてから1年半で体調を崩し，長期の休職を余儀なくされた。

塞ぎ込む日々が続く中，大学の先輩が誘ってくれたのが銭湯だった。久々に訪れた銭湯は心地よく，明るい光に包まれたお湯に入っていると，自分はこのままでもいいと言われているようだった。そこから銭湯に夢中になり，銭湯の魅力を多くの人に伝えたいと銭湯の絵を描いてSNSに投稿するようになった。その投稿を見て「パンフレットを描いてほしい」と声をかけてくれたのが小杉湯の三代目だった。最初は打ち合わせで小杉湯を訪れたが，三代目と意気投合し，その後も小杉湯に遊びに行くようになった。

銭湯通いの日々を過ごすうち，体調もよくなり復職へ。遅れを取り戻そうと仕事に励んだが，集中力を要する建築の仕事に体がついていかず，やがて建築業界で働くこと自体が難しいと思うようになってしまった。どん底だった。積み重ねてきたものがなくなり，未来への希望もなくなった。体も思うように動かず，ただただ焦燥感だけが募る中，三代目は「じゃあうちで働かない?」と声をかけてくれた。すごく嬉しかった。でも，答えに詰まった。早稲田を出て，銭湯に転職だなんて前代未聞だ。しかし，イラストの活動を続けたい，銭湯で働いてみたい，という思いも強くあった。考えても考えても，その答えは出ない。そこで，友人10人に相談をしてみた。1人でも反対したら転職は諦めようと思っていたが，全員が賛成。「塩谷は元々絵が好きでしょ。建築にはいつでも戻れるんだから，今ある道をつかんだ方がいい」という言葉に，自分が建築家に憧れる以前に，絵を描くことが好きだったことに気づき，転職を決意した。

建築から銭湯への転職で感じたことは「今を生きる」ことだ。体を壊し，自分の過去も未来も手からこぼれ落ちる感覚を味わったとき，奥底にあった「絵を描きたい」という純粋な思いが形になった。数年先の未来を見据えること，過去の蓄積を重んじること，それ自体は悪いことではないが，今自分が何をしたいかを忘れてはいけない。未来や過去のために，自分の感情を蔑ろにすることは，今自分が生きていることを否定することになる。今の私の声を聞くことも，時には大切なのだ。

私は絵を描きたい思いに寄り添って生きている。蓄えはないし，パートナーもいない，数年先には破綻するかもしれないが，それでも以前よりずっと息がしやすい。人それぞれ様々な生き方がある。でも，今の気持ちに寄り添うこんな生き方も，悪くはないと思うのだ。



「小杉湯図解」
（出典：塩谷歩波（2019）『銭湯図解』中央公論新社）

JR高円寺駅より徒歩5分，昭和8年創業の小杉湯外観

コーヒー風呂を実施した際に作成したポスター

表紙写真：iStock.com/Palto

スモールステップを積み重ねる
ディスカッションに向けた指導

ディスカッションを授業に取り入れる学校が増えています。
しかし,「活動がうまくいかない」という悩みをお持ちの先生がたも多いのではないでしょうか。
本特集では,中学校でディスカッションを実践するにあたっての課題と解決へのアプローチについて,
工藤洋路先生と津久井貴之先生にお話を伺いました。
また,日々の授業からディスカッションにつなぐための指導例を,
興津紀子先生・永田岳先生にご紹介いただきます。

①座談会:ディスカッションに向けた指導の課題と解決へのアプローチ(工藤 洋路・津久井 貴之)
②指導例:ディスカッションの土台をつくる活動(興津 紀子)/
発展的なスピーキング活動への橋渡し　中学校段階の「伝え合う」活動(永田 岳)

座談会

ディスカッションに向けた指導の課題と解決へのアプローチ

工藤 洋路(玉川大学)× 津久井 貴之(大妻中学高等学校)

中学校でディスカッションを行う意義

工藤：ディスカッションを授業に取り入れている学校は増えてきていますよね。先生向けの講習会でも，テーマとして取り上げることが増えました。

津久井：新学習指導要領「話すこと［やり取り］」の目標ウに，「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。」(『中学校学習指導要領解説　外国語編』，2018，p.23）とありますね。これに対応した活動として，ディスカッションは今後ますます必要になるでしょう。

工藤：ディスカッションを通して身につく力はさまざまです。どんな力を習得させたいか考えておかなければ，つけさせたい力が十分に身につかないこともあるので，注意が必要です。また，ディスカッションの活動の中だけでなく，英語の授業全体を通して，意見を言ったり，質問したりすることを練習していないと，ディスカッションがうまく進むとは思えません。

津久井：たしかに，高校の授業を見ていても，その練習が抜けたままここまで来たんだなと思うことがあります。原稿を事前に作らせておけば意見の主張はできますし，活動が何となく成り立って見えますが，「できたつもり」になっていないか，気をつけたいところです。

工藤：逆に考えると，授業の様々な場面で，ディスカッションに必要なスキル，例えば意見を言ったら理由を加える，相手の発言をレポートした上で自分の意見を続ける，といったベーシックなスキルを身につけていれば，ディスカッションはそれなりにできるはずです。大会に出るような高度な力をつけたい場合などは，ディスカッション自体の集中的なトレーニングが必要になると思います。

日々の授業の中でサブスキルを身につける

❶意見を論理的に言う

工藤：中学生にとってのディスカッションの肝は，「自分の意見を言う」「相手に質問をする」だと思います。まず「自分の意見を言う」についてですが，中学生がどこまで深い意見を言えるようになればよいでしょうか。中学校では，よく「意見とその理由を言おう」と指導しますよね。客観性や論理性などがある意見と理由を言えるとよいのですが，まずは意見と理由が内容的につながっていることが大切ですよね。

津久井：そのためには，ある程度論理的に意見を組み立てる必要がありますが，「becauseを使って，何でもいいから理由を言ってみよう」から脱するのは，なかなか難しいですよね。論理的な意見を英語で言おうといきなり言われても，高校生ですらピンとこないと思います。論理的に話す目的は，聞き手を納得させるためですよね。まずはその練習として，聞き手に「そうなんだ」と思ってもらえるような，good reasonを立てることから，論理的な思考の基礎を教えていくとよいかと思います。

工藤：good reasonには，「具体性」が大切ですよね。中学生の意見は，“I like ○○ because it is interesting.”のように，表面的になりがちです。小さなことですが，少しだけ細かく表現する習慣をつけることで，good reason，ひいては論理的な思考に近づいていくでしょう。例えば，猫が好きだと伝えるときに，“I like cats because they are cute.”では表面的な話で終わりますが，“I like cats because their movements are cute.”とすれば，少し具体的な理由になりますよね。まずはこのくらいから始めるのが現実的だと思います。

津久井：聞き手は話し手がそれを選んだという事実より，「なぜそれを選んだのか」に興味を抱くものですからね。実際に今，“Their movements are cute.”と聞いて，「僕は猫が嫌いなんだけれど，猫のしぐさがキュート？ どこが？」と，興味が湧きました。意見を聞いて質問をするスキルが身につけば，この主張を受けて，“Their movements? I think dogs' movements are cuter.”などと，話を広げられますよね。

工藤：好きな料理の話でも，「おいしいから」をもう少し分析し，具体的な理由を言ってみるなど，まずは身近な話題でgood reasonを作ることができるようになりたいですね。もちろん，理想は論理的に意見・理由を言えることですが，中学生のうちは，まずgood reasonを目指してはいかがでしょうか。

❷意見を聞いて，質問をする

工藤：次に，意見を聞いたあとに質問をするステップです。適切な質問をすることができるとベストですよね。

津久井：適切な質問をすることは本当に大切ですよね。しかし，高校生でも，その一歩手前の「即興的に質問をする」段階で，行きづまっているように感じます。

工藤：中学校では授業全体を通して，先生が質問する場面が多いですよね。最初はしかたがありませんが，中学3年生にもなって，“How's the weather today?”を先生がまだ聞き続けていたら，生徒は常に受け身になりますよね。また，本文理解の場面で，ワークシートに質問がすべて書かれていると，音声での即興的なQ&Aを行う場面が少なくなったりしますね。

津久井：「読む・聞く」が，聞いて，すべてを理解したうえで問題を解くという，テストの「読む・聞く」の認識のままになっていないでしょうか。そうなると，生徒は常に問題を解く受け身の立場なので，自分から質問するという発想になかなかたどり着けなくなります。問題を解かせて終わりではなく，聞いたり読んだりしたことに対して，疑問に思ったことなど何でもいいので1個質問を作ってみよう，などのタスクを加えられるといいのですが，生徒としては，文章をすべて理解できていないのに，プラスアルファの質問をすることは難しいと思っているようです。

工藤：その場合は，聞き取れていないところをもう1回言って？ と質問をしよう，なんてことから始めてもいいですよね。文意をすべて理解したうえで，文中には言及されていないけれど内容に関連することを質問することは，次の段階であって，まずは生徒自身から質問を出せるようになることが第一です。テキストのすべてが理解できなくても質問はできるということを，生徒に教えていきましょう。

津久井：先生としても，「質問をする」に段階があることを知っていると，生徒に質問をさせることのハードルが下がるのではないでしょうか。できることから少しずつ，挑戦したいですね。

工藤：生徒が受け身になりがちなのは，問題を解く場面だけではありません。先生が答えをあらかじめわかっている質問，つまりdisplay questionが多いと，生徒からの質問も自由度が少なくなり，想定問答になってしまいます。友達の所属している部活や住んでいる場所など，あらかじめ知っていることばかりを質問しても，真のコミュニケーションにはなりません。日本語でも質問をしたことがない内容について，相手の考えなどを聞くという機会を増やしていきたいですね。

津久井：生徒主導のオープンエンドな授業は，クラスをコントロールできなくなる恐怖感との戦いになります。もちろん，授業に全く関係ないことを言っていたら止めさせるのですが，ある程度，生徒の自由な発言やつぶやきを許容することは，教室を「答え合わせの場」ではなく「コミュニケーションを学ぶ場」にするために必要ですね。

活動の目的を考える

❶目的に応じたトピック選定

津久井：実際にディスカッションをする際，注意しなければならないことのひとつが，トピック選定です。知的好奇心の非常に高い生徒は，難易度の高いトピックでも，しっかり調べて議論をしようとします。ただ，トピックの難易度を上げるほど，高度な英語が要求され，やり取りがしづらくなるでしょう。

工藤：難易度の高いトピックでは，準備に日本語を多用します。最終的には英語を使えているのかもしれませんが，それは準備してきた日本語を最後に翻訳した英語ですよね。どうしても背伸びした英語になってしまうので，主張が理解できず，その後の質問・反論が苦しくなってしまいます。

津久井：まず，活動のどこに重点を置くか，先生自身で考えておく必要があります。基本的には，ディスカッションの醍醐味である「英語でのターンテイク」を体験させることを目的にして，生徒が英語で話すことができる易しいトピックを選ぶのがよいと思います。テーマに対する深い思考を要求するために，難易度の高いトピックを選ぶという選択肢もありますが，ディスカッションへの苦手意識がつくことを避けるためにも，難易度の高いトピックへの深い思考は無理にディスカッションで行わなくてもよいのではないでしょうか。

工藤：易しいトピックであっても，ディスカッションの準備では，どうしても日本語が口から出てくるでしょう。その時は，準備の合間に英語をはさんでみるのはどうでしょうか。例えば，思いついたアイディアをその場で英語にして相手に伝えてみる，などです。途中段階で英語を使用するステップをはさむことで，このアイディアを英語で主張できるか，考えることができます。準備の終盤～本番だけ英語を使うのではなく，途中段階で，ラフな英語でもよいので，少しずつ英語で言ってみることが必要でしょう。

津久井：日本語と英語を「行き来する」イメージですね。全部を英語／日本語のどちらかで行うのではなくて，できる部分は英語で行おうとすることが大切です。

❷「結論」を出さなくてもよい

工藤：ディスカッションの目的について，少し考えてみたいと思います。高校の学習指導要領に「ディスカッションとは，互いに情報を交換したり，意見を出し合ったり，話題に関する理解を深め，互いの意見や主張の優れている点や改善すべき点を伝え合ったりする活動である。」（『高等学校学習指導要領解説　外国語編』，2018，p.88）とある通り，結論を出すことだけが目的ではありません。アイディアを出し合うことや，アイディアのよい点・悪い点を指摘し合うこと自体も，ディスカッションの目的として成り立ちます。それぞれの目的に応じて，必要とされるストラテジーや言語機能も変わります。ディスカッションの目的と，話し合うトピックが合致している必要があります。

津久井：ディスカッションするからには結論を出さなければ，という固定観念があると苦しいですよね。中学生ですと，多数決やじゃんけんに頼ってしまいそうになります。アイディアを出し合う程度であれば，生徒もあまり気負わずにできると思います。

工藤：結論を出すとなると，妥協したり，議論を収束させたりするための表現を教えなければならないのですが，これらの表現を適切に用いて議論を終わらせることは，とても難しいですよね。やはり，意見に対するよい点・悪い点を出せるようになれば，中学校のディスカッションは成功といえるのではないでしょうか。必ずしも賛成・反対のどちらかについて意見を述べなければならないわけではありません。「給食のよい点・悪い点をみんなで出し合おう」のような軽めの話題でも，十分ディスカッションらしい活動ができますよ。

津久井：そのような軽めの話題で，気軽にディスカッションに挑戦してほしいと思います。ディスカッションをする中で，「一人では浮かばなかったアイディアが，クラスメートからたくさん出てきた」，「自分が考えた意見と同じことをだれかが考えていた」などの体験を，中学生のうちに経験できているとよいですね。その体験からおもしろさ，うれしさなど，ディスカッションに何かしらの意味を見いだすことができれば，高校でのディスカッションを意欲的に行うための手助けになると思います。

Webサイトでは，さまざまなテーマの対談コラムを掲載しております！ ぜひ，ご覧ください。
工藤洋路＆津久井貴之の English Coffee Break

工藤 洋路
・東京外国語大学外国語学部卒業，
　同大学院博士課程前期・後期修了（学術博士）
・玉川大学文学部英語教育学科教授

津久井 貴之
・群馬大学教育学部卒業，
　同大学院修士課程修了（修士）
・大妻中学高等学校教諭

ディスカッションの土台をつくる活動

はじめに

ディスカッションは,「参加者が意見を交換する」「意見を聞き,相違点や新たな課題を確認する」「結論・解決策を協力して構築する」といったさまざまな要素が組み合わさった共同作業であるが,教室内で行われる英語のディスカッションでは,それぞれの参加者が準備した意見を述べるだけで終わってしまうことがある。今回紹介する活動は,「参加者が意見を交換する」場面で,即興で話すことや,聞いたり見たりした内容に反応することができる力を養うための,実りあるディスカッションへ向けた「土台づくり」の活動である。

問答ゲーム

ねらい
- 自分の意見を根拠とともに述べることができる
- 相手の話を聞き反応することができる

問答ゲームは,「自分の意見を根拠とともに述べる」「相手の話を聞き反応する」ことを目的とするトレーニングである。以前勤務していた学校の総合的な学習の時間では,三森(2013)を参考に,論理的に話すトレーニングとして日本語で行っていた。それを,英語でも行えるよう再構成している。

問答ゲームは3つのRoundで行う。ディスコースの論理展開を生徒に知らせ,そのポイントをRoundごとに分けることで取り組みやすくするためである。基本形のRound 1では,自分の主張に対して理由を1つ述べる。まず,生徒A・Bでペアになる。教師は,生徒Aだけが見るよう指示し,トピックを提示する。トピックは,Englishやwatching sportsといった語句など,習熟段階に合わせて選ぶ。下の表のようにルールと対話例を提示し,ペアで対話を行わせる。どの学校でも行われているようななじみのある対話ではあるが,「すばやく」「テンポよく」行うことがポイントである。帯活動として根気強くトレーニングを続けることで,理由を述べるスピードやスムーズさに変化が出てくる。また何かを判断する時に常に根拠を持って考える姿勢が身につく。活動に慣れた頃には対話例を提示せずに行わせる。

Round 2では,生徒Bが理由を2つ述べる。トピックは,watching movies in the theater / at homeなど,対比で考えると複数の理由を述べさせやすいだろう。

Round 3では,生徒Bの理由をより詳細に描写させるため,生徒Aが5W1Hを使用して関連質問を行う。

また発展編として以下のようなものが考えられる。

・対話を始める前に,生徒Bの主張(Yes. / No.)を教師(または生徒A)が決める。生徒Bは自分の意に沿わない主張に対する理由を考えなければならないが,トピックに対して多面的に考える経験ができる。

・生徒Aは,“Do you agree ...?” “Do you think ...?”などのlikeとは異なる動詞や,“Which do you like better, ...?”などの5W1Hを使い,トピックを評価させる質問をしてもよい。問答ゲームのルールを維持しつつ,学年に応じた言語材料や語彙を使用し,活動に広がりと継続性を持たせることが可能である。

問答ゲームはトレーニングとして対話例に沿って行うが,自然なコミュニケーション場面でも型通りに理由を述べなければならないと生徒に思わせないように,さまざまな機会を捉え,自然な文脈の中で型にはまらない理由の述べ方を指導したい。この活動を帯活動として行うことでディスカッションの「土台づくり」をしつつ,授業の中心部分には,目的・場面・状況に応じた英語使用のできるコミュニケーション活動を据える必要があると考えている。

Round 1

ルール

Bは好きか嫌いかを主張し,その理由を1つ述べる。AはBの主張と理由を繰り返す。

A: Do you like ○○?
B: Yes. / No.
I like / don't like ○○ because ....
A: I see. You like / don't like ○○ because ....

Round 2

ルール

Bは好きか嫌いかを主張し,理由を2つ述べる。AはBの主張と理由を繰り返す。

A: Do you like ○○?
B: Yes. / No.
I like / don't like ○○. I have two reasons. First, ... Second, ...
A: I see. You like / don't like ○○.
理由を繰り返す

Round 3

ルール

Bは好きか嫌いかを主張し,理由を1つ述べる。AはBの理由に関連した質問をする。

A: Do you like ○○?
B: Yes. / No.
I like / don't like ○○ because ....
A: Why (How / When / What / Which / Where) ...?
B: 質問に答える

ディスカッションに必要な「即興で話す力」などを鍛えるため，
日々の授業で取り入れられる活動をご紹介いただきます。

興津 紀子
（元 三田市立狭間中学校）

Picture Talk

ねらい ●状況に応じて即興で話すことができる

Picture Talkは，提示された絵や写真の描写・質疑応答・コメントを行う帯活動である。問答ゲームでは文脈に依存しない質問が提示されるが，この活動では，絵や写真で作り出された文脈において，状況を的確に描写し，その状況と相手や自分の状況とを関連させて質問を行ったりコメントを述べたりすることが必要となる。また，1つのエピソードから話を展開させていく経験をする機会にもなる。この活動ではディスカッションに必要な，状況に応じて即興で話す力を養うことをねらいとしている。

(1) 1枚の写真を見せる。写真は，「図書館で本を選んでいる」，「店員に何かを尋ねている」など，習熟度が低いほど具体性のあるものが描写をするのに適しているかもしれない。

(2) ペアで，1文ずつ交代しながらその写真について1分間描写させる。

(3) (2)の活動の後，その写真から連想されることで，相手に関連することを質問させる。例えば，「図書館で本を選んでいる」写真であれば，“Do you often go to the library?” と事実を尋ねたり，“Which do you like better, studying at home or studying in the library?” と意見を引き出したりする質問が想定される。この質問を皮切りに1分間会話を継続させる。

また，教科書の挿絵を使用してPicture Talkを行うことができる。

(1) 教科書の挿絵を，本文を見せずに提示する。その挿絵をペアで描写させる。*NEW CROWN* 3 Lesson 5 Get 3であれば，“Meiling is talking about a postcard. She received this postcard from her friend in Africa.”のような文が想定されるが，この段階ではまだ本文を提示していないため，生徒が内容と異なることを描写してもかまわない。内容を推測することで，生徒が本文により興味をもって入ることができる効果もある。

(2) この後 “I want to go to Africa to see wild animals.” や “These animals look free and calm.” など，その挿絵について即興でコメントを述べる。“It is good.”だけで終わらせず，何がgoodなのか具体的に述べるように指導したい。

Q&Aセッション

ねらい ●相手の話を批判的に聞くことができる
●相手の話を自分の経験や学習に関連させて聞くことができる

*NEW CROWN*のUSE SpeakやProjectで発表を行った後にQ&Aセッションを設けることも即興性を養うよい機会になる。聞き手は発表内容を自分の経験や学習したことと関連させたり，批判的に聞いたりすることを意識し，発表者は自分が聞き手だったらどのような質問をするかを想定しておくことが必要になる。1年生は尋ねたいことが自分の英語力では尋ねられないという状況に陥るため，教師は質問と応答のどちらにも介入を行うが，それに慣れた3年生は，聞いている間に疑問点をメモし，既習の表現を駆使して質問をするようになる。私の指導経験でも，3年生になると自分たちでQ&Aを成立させ，そのやり取りを楽しみ，互いの学びを深めるといった成長を見ることができた。このように，Q&Aセッションは教師の介入の度合いを徐々に減らしながら3年間のスパンで取り組みたい。

おわりに

最後に，即興性という観点で教師の教室内英語を振り返ってみたい。自分の授業映像を見た時，生徒の発話に対して，“Good!” “Well done!” といった短い褒め言葉を連発して対話を終わらせることが多いことに気づいた。生徒が面白い話題を提供してくれても，即興力に欠けた対応しかできず，対話を発展させる機会を自ら消失させていた。短い褒め言葉に加え，内容に対してコメントを述べたり，更なる情報を求めて問答ゲームのRound 3のような関連質問をしてやり取りを継続させたり，別の言葉で生徒の言ったことを要約したりと，ディスカッションを含むコミュニケーション場面で使用できる言語使用のモデルを教師が示すことが重要だと考え，実践しようと試みている。生徒とともに教師も即興力を磨く機会を授業の中に見いだしたい。

参考文献　三森ゆりか(2013).『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店

発展的なスピーキング活動への橋渡し 中学校段階の「伝え合う」活動

「活動」と「フィードバック」のサイクルで育てる発話の「即興性」

高校段階においてディスカッションやディベートなどの発展的なスピーキング活動を実施するためには，中学段階から日々の授業内で短い対話や発話を行う活動を繰り返し実施し，英語で即興的に話す力を伸ばしていく必要がある。また，より質の高い発話を生徒に意識させるため，一つの活動を一回の授業内で複数回実施し，活動間で意識を向けるべきポイントをフィードバックするなど，生徒の意識や姿勢に直接働きかけていく必要がある。

こうした活動の例として，明示的に生徒を質問者側と回答者側に分け，１分間などの限られた時間内で既定の質問をさせるインタビュー型のペアワークが挙げられる。この場合，一つのセッションを短く設定することができるため，同じ活動を一つの授業内において複数回実施することが容易となる。初回の活動中に生徒の様子を教員が観察しておき，学齢や活動状況に応じてフィードバックを与える。その直後に再び同じ活動を行うことで，こうした点に意識を向けた練習を促すことができる。

また，教科書本文のリテリングやスピーチの活動においても，発話の即興性向上を意図した指導が可能である。まずイラストや文字情報などをもとに生徒が発表準備を短時間で行い，ペアなどでお互いに披露し合う。その後，教員がフィードバックを行ったり，模範演技を見せたりした直後に，もう一度，生徒がスピーチを準備し，披露する機会を設ける。こうした「活動→フィードバック→活動」の手順を踏むことによって，より生徒に発話の質へ意識を向けさせた活動を実施することが可能だ。

このようなフィードバックの例としては以下のようなものがある。まず，特に学齢の低い中学生にはコミュニケーション活動への参加の仕方そのものについての指摘が有効である。例えば，やり取りの際の目線や体の向き，声や表情，相手の発話への反応の仕方，聞き取れない時の尋ね方などである。特にこうしたコミュニケーション活動では，ワークシートや活動の設定そのものを通して生徒間で自然と文脈が共有されてしまうため，しっかりと質問や発話を行うよう意識させる必要がある。また，文法項目や語彙，発音の修正など，より言語的な視点の指導も重要である。毎回の授業で１種類程度，フィードバックする点を設定し，生徒に注意を促すとよい。

「即興性」を支える「順序」の「論理性」

意見の表明や根拠の提示が不可欠となる高校以降のより発展的なスピーキング活動へと生徒を橋渡ししていくためには，英語で論理的に話す力を中学生の段階から継続して育んでいく必要がある。

概して，このように「論理性」というと「一つの主張とそれを支える根拠」のように「構造」として意識されることが多いが，中学校で扱う日常の生活に関する話題においては「A→B」というような単純な順序の意識を作るだけでも，十分に生徒の論理的発話を促す指導の第一歩となる。

その方法の一つとしては，英語のやり取りにおける質問やトピックの自然な「つながり方」をインタビュー型のチャット活動などで生徒に体験させることが有効である。中学校で扱われることの多い身近な話題に関するやり取りにおいても，トピックのつな

チャットなどの短いやり取りの活動を，ディスカッションのような発展的な活動につなぐための，段階的な指導の実践をご紹介いただきます。

永田 岳
（海城中学高等学校）

がり方を意識し，あらかじめ順序立てて質問を作成しておくことで，話題を深めたり，広げたりすることができ，やり取りの「おもしろさ」を演出することも可能だ。

こうした話題の「つながり方」には，いくつかのパターンがある。その代表的な例としては「現在→過去」「過去→現在」「過去→未来」といった時間的なものや，「一般→個別」「上位概念→下位概念」「特定の話題→隣接事項」など，話題の関連性に依拠するものがある。これらを駆使することで例えば「映画」というトピックだけでも「好きなジャンルは何か」「普段，映画を家で見るか，映画館で見るか」「～という映画は見たか」など，簡単な英語でもかなり多くのことを話題にすることができる。こうした身近な話題の広がりを具体的に示していくことで，英語を学び始めの中学生にも即興的なやり取りをするための論理性を少しずつ理解し，実践してもらう機会を設けることができる。

また，活動前後のフィードバックを通し，生徒の意識を直接こうした話題の「順序」へ向けていくことも重要である。例えば，質問群を提示し，生徒自身にそれらを並べさせ，なぜそうした順番で質問が並べられるべきか考えさせてもよい。また，チャット活動のワークシートに空所をあえて用意しておき，その流れにおけるよりよい質問を考える活動を実施することも有効だ。

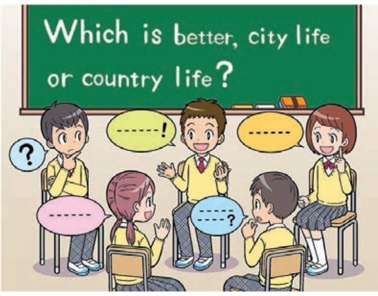
なお，意見や理由の表明といった発展的な活動も，こうした「順序」を意識した指導の延長線上で行うことが可能である。主張がまず最初に述べられ，その後，根拠が提示されることや，より個別の議論がなされること，もしくは因果関係が示されることなども，インタビュー活動での質問順序を通し体験させることができる。その都度，それに注意を向けさせるとともに対応する英語の表現を示していくことで，より論理的に話す力を徐々に生徒につけさせていくことができるのだ。

論理的に「伝える」から「伝え合う」へ

高校学習指導要領の話すこと［やり取り］に以下のような目標が掲げられている。「イ 社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。」（『高等学校学習指導要領解説　外国語編』2018, p.26）ここで目標の要点が，「伝え合う」こととされている点に注目したい。

中学校から高校初期段階にかけて，それ以降のより発展的なスピーキング活動へと橋渡しするためには，ただ自身の意見を「伝える」活動から互いに「伝え合う」活動へとつなげていかねばならない。例えば，中学段階においては前述のインタビュー活動での質問を活用し，直後のクラスルームトークで数人の生徒にパートナーの発言内容についてたずねたり，一回の活動後にペアを変え，得た情報を新しいパートナーに伝えさせたりすることで，自分のことを「伝える」だけでなく，互いに「伝え合う」ことを意識させることができる。また，プレゼンテーションやスピーチなどにおいても，聴衆の生徒に役割を与え，彼らに必ず質問をさせる工夫をしたり，発表者側にも発表内で聴衆へ質問させる，もしくは最後に理解確認クイズを実施させたりすることで，情報を「伝え合う」ことを強調する仕掛けが可能である。

また「伝え合う」活動の代表的な例であるディスカッションも段階的に導入することで，より生徒が参加しやすい工夫をすることができる。例えば，まずインタビュー型のペアワーク活動を行い，「AとBのどちらがより重要か」などについて意見や理由を交換するタスクを実施する。その後，ペアでの活動からグループへと規模を大きくし，グループ内において多数派がどちらか報告させる。そして，同じ意見の生徒を数人ずつのグループに分け，その中で彼らがそう主張する理由を交換させる。多かった理由をまとめさせ，その結果を各グループから発表してもらい，話し合いを受けて，意見を変えた人がいないか確認する。このように，意見を出し合うだけの活動から意見をまとめ合う活動へとステップを踏んで橋渡ししていくことで，論理的に互いの主張を伝え合う方法について指導することが可能になる。なお，活動の際には，生徒のレベルに応じて日本語や英語の使用を調整したり，クラス全体で話した内容を共有する方法を工夫していく必要がある。例えば，付箋やワークシートに書いて報告させたり，ICT機器を活用するなどの手段も有効だ。



このようにやり取りにおける即興性や論理性を中学段階から養成し，互いの考えを「伝え合う」活動を継続して実施することで，より本格的なディスカッションやディベートなどのさらに発展的な活動が可能となってくるのだろう。

カリタス女子中学高等学校
金丸 紋子先生
(3年生担当)

本時の授業

BOOK 3 Lesson 6
7時間目
(USE Read)

◆授業を考える時に大切にしていること

コミュニケーションのツールの一つである英語力を伸ばすことだけでなく，語学学習の中にもcritical thinking skillsを伸ばしていく仕掛けをなるべく入れるようにしています。また，目の前の生徒の興味関心に合わせて，教科書「を」教えるのではなく，教科書「で」教えることを心掛けています。そのためにも，できる限りauthenticな教材やコンテクストを提供し，英語学習に対するモチベーションを保ち続けられるように工夫をしています。更には，教室でクラスメイトと一緒に学ぶことで，視野を広げたり，他者とのかかわり方を工夫したりする経験を重ねていくことができるように，協同学習の原理を組み込んだ授業を展開するようにしています。

授業紹介

授業開始

Review & Warm-up　Lesson 6で学んだことを振り返る(15分)

❶アフリカ系アメリカ人がどのような不当な扱いを受けてきたか考えよう。(ペア／5分)

"How were black people in the US treated unfairly in the early 20th century?
Let's take turns in sharing ideas with your partner."

☆アイディアを出しやすいように,Lesson 6のページで出てきた写真を並べたプリントがあるとよい。
☆サンプルフレーズを提示することで,発話に悩む生徒も参加しやすい環境を作ることができる。

Sample Phrase: There were ______ black people could (not) use.
Black people could / should / had to ______ .

❷身の回りにある「不公平」だと思うことを探してみよう。(グループ／10分)

"Some people are treated unfairly in our community or country.
Let's make a list of the problems that we have."

☆時計回りに発言させるなど,全員が参加できるように指示を加えるとよい。
☆英語での表現が難しい場合は日本語の使用もOKとする。

Sample Phrase: There are some people who(m) ....

Think　リーダーの資質(leadership qualities)について考える(18分)

❶素晴らしいリーダーはどんな人か,書き出してみよう。(個人／5分)

"Individually, complete these 3 sentences on sticky notes in different colors;
Leaders are ....(red) / Leaders can ....(blue) / Leaders have ....(yellow)"

☆必要に応じて辞書を用いても良い。
☆Leaders are brave. Leaders can listen to other people. Leaders have great focus.
など自由に文を完成させる。

❷それぞれが考える"leadership qualities"をシェアしよう。(グループ／5分)

"Organize your ideas on the large sheet of paper provided for your group."

☆似た内容のポストイットは重ねて貼ってもよい。
☆さらにアイディアが浮かんだ場合は,ポストイットを追加してもよい。
☆ "I think leaders can make ....", "That's a good one!", "Mine is similar/different ....",
"Does anyone have similar ideas to mine?"
など使えそうなフレーズを投影・板書すると生徒が英語でのやりとりに挑戦しやすくなる。

◆本時のポイント

①ウォームアップの活動の一つとして，キング牧師が不公平な社会の制度に立ち向かった事例を学んだあとに，時と場所を「現代」の「日本」に移し替えて考えさせることで，これまで学んだことから「当事者意識」を引き出すきっかけを作ります。

②リーダーとなる人の持つスキル，姿勢などに注目し，生徒たち一人ひとりの中にも「リーダーとしての資質」があることを認識させ，自己肯定感を高める足場作りをします。

③比較的高めの思考力を必要とする活動も，サンプルの表現を提示することで，生徒たちが自分の考えを英語で表現できる楽しさ，自己表現に対する自信を高めることをねらいます。

Lesson 6　指導計画

アメリカの歴史について学びながら「人権」について考える。後置修飾の形を理解・使用することで，より内容の深い発信ができることを目指します。

GET（4時間）

後置修飾の基本的な文構造と意味を理解しつつ，アメリカの公民権運動が起こるまでの背景をダイアログや発表を通して学んでいきます。

USE（5時間）

▶1・2時間目 USE Read

公民権運動の展開とキング牧師の活躍について理解を深めていきます。

▶3時間目 USE Readから発展した，自己表現活動（本時）

キング牧師から考える「リーダーの資質」を探り，自分の中にあるリーダー性への気づきを促します。

▶4・5時間目 USE Write

尊敬する人物や憧れの人物について自分の言葉で語る練習をします。

文法のまとめ（1時間）

❸グループのメンバーが持っている “leadership qualities”を見つけよう。（グループ／5分）

"Discuss with your group members and find one or two leadership quality(ies) from the sticky notes you created in the previous stage, that each group member has. Then write the name of the person on the sticky note(s)."

☆グループの模造紙に，メンバーの名前が記入してあるポストイットが最低1つはある状態になる。

Sample Phrase: You have this quality! For example ....
You are always ..., so this is your quality!

❹みんな世の中をよくしていく力があることを再認識しよう。（クラス／3分）

"Let's talk about what you have found through this activity with the whole class."

☆場合によっては教師が以下のようにまとめても良い。

Sample Teacher Talk: As you can see, everyone has a skill or quality to be a great leader. Everyone can help to make changes for a better world. The importance is not to look away from problem(s) you found.

Make a Speech　I Have a Dreamのスピーチをつくる（12分）

❶“I Have a Dream”のスピーチを考えよう。（個人／10分）

"Let's look at an issue around you or people who are unfairly treated in your community. What issue(s) do you want to solve for the people who are not treated equally? Create a speech script in 3-4 sentences, beginning with 'I have a dream!' "

☆授業の始め（Review & Warm-up ②）でリストアップした中から選んでも良い。

☆教科書に載っているスピーチの一部からもわかるように，人の心を動かすスピーチの特徴の一つは「わかりやすい例や説明」が入っていること。具体的な例をスピーチの中に入れてみよう。

Make a Speech

❷〈宿題〉スピーチを完成させよう。（2分）

"Let's complete the speech script at home."

☆次の授業で発表の時間をとり，作品をシェアさせても良い。

授業終了

■授業を終えて

歴史上の偉人について学ぶときは，自分と似ている部分を探したり，「今の自分が置かれた環境」などと結びつけたりしていくと，学びが単純な「知識」から「思考」へと深まります。リーダーの資質について考える活動では，生徒たちは自分にもその資質が備わっていることに気づき，驚きもありつつも，少し自分に自信を持つことができたようでした。本時の授業では英語の言語的強化よりも，英語を用いて自分の考えをシェアしあったりするグループ活動に焦点をあてました。これまでに学習してきた文法事項が，フワリと自分の表現の中に入ってくる楽しさを経験することで，これからの英語学習への動機づけにも繋がっていくと思っています。

小学校から見た小中接続(3)

― 小中連携 ―

中西 浩一　Nakanishi Koichi　（平安女学院大学）

① 小中連携のポイント

外国語科という1教科の視点ではなく，学校として考えると，2つあります。

1つ目は「お互いを知り合うこと」です。小・中学校は文化，システムなど異なる点が多々あります。まずは，授業参観や行事交流などを通して教職員，児童生徒が知り合う機会を作りましょう。中学生は小学生にとっていろいろな意味で「憧れ」です。部活動だけでなく，スピーチや劇，合唱など中学生のプレゼンテーションビデオを小学生に見てもらったり，オンラインで授業をするなど，移動をしなくても交流する方法はあります。また，小中の教員がお互いの教科書を見ておくのも大切です。特に中学校教員にとっては必須でしょう。

2つ目は「ゴール，カリキュラム，学び方の共有」です。9年間（外国語は7年間）の各学年の到達目標（何ができるようになるか）とそれを実現するための年間学習指導計画（何を学ぶか）を策定し，共有することから始めましょう。

そして重要なのが「学び方（どのように学ぶか）」の共有です。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために，各教科等に共通した「学び方」を学校で共有している小学校はたくさんあります。教科担任制の中学校でそれができている学校は，小学校に比べると少ないのではないでしょうか。ここはぜひ校区の小学校から学びましょう。

また，効果的な小中接続のための小中連携を進めていくためには，中学校区の小中連携会議・校区授業研究会などを，オンラインも使いながら，年数回であっても毎年継続して行うことが必要です。校長や連携担当者だけでなく，全教職員が協働しながら進めていきたいものです。

② 小学校教育から学べること

外国語科として小学校から学べるのではないかと思うことは3つあります。

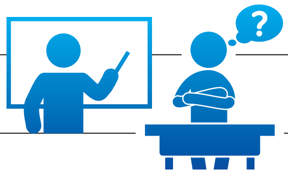
1つ目は「プラス評価」です。出口に高校入試を控えた中学校ではどうしても「100点満点からのマイナス評価」になりがちですが，小学校では基本的に個々の児童ができたことを褒めながら伸ばします。これは言語学習において大変効果的です。言葉は間違いを繰り返しながら身につけていくものだからです。具体の指導法でいえば，例えば「リキャスト」に代表されるように，間違ったことを否定的に指摘されるのではなく，肯定的にフィードバックされることで，児童はより積極的にコミュニケーション活動に取り組もうとします。相手の発話を受け止めて繰り返したり，質問したりという基本的なコミュニケーションストラテジーの指導は中学校においても一層充実させていきたいですね。

2つ目は「他教科等との関連づけ」です。一部の専科を除きほとんどの教科等を学級担任が指導する小学校だからこそできる最大のメリットです。世界の国々といえば社会科，食べ物といえば家庭科と，各教科等の内容を関連させながらの学習は児童の興味関心を刺激し，モチベーションを高めます。中学校においても，各教科等のカリキュラムを共有するとともに，担当以外の教科についても必要に応じて教科書の内容を確認するなどして教科横断型の授業を実践したいものです。

3つ目は「めあて・中間評価・振り返り」という学習プロセスです。小学校ではこのプロセスが大切にされています。児童の主体的な学びにつなげるためです。あたりまえのことですが，学習の主体は児童生徒です。本時（単元）の目標が何で，どうなればいいのか・何を目ざすのかを児童生徒が把握していなければ，主体的に学ぶことはできません。本時（単元）の「めあて（目標）」を児童生徒自身が理解して学習に取り組む中で，自分の学びの進捗状況を確認し，するべきことを自分で考えながら自らの学びを調整していきます。そのために授業をマネジメントするのが教員の仕事です。

小学校は中学校から，中学校は小学校から学ぶという姿勢が小中連携の基本であり，その結果としてスムーズな小中接続が実現するのではないかと考えます。

Essay **100%?**



Mark Schwarz (Fuchu Higashi High School / Lingua Language Studio)

Very occasionally, when I'm having a conversation with someone, I'll say, “I'm sorry?” or “I beg your pardon?” or even “Huh?” Does that mean I understood absolutely everything else they said apart from that? Absolutely not. For a variety of reasons, including accent, dialect or just unclear speech, I will have missed a few details here and there. However, using context, general knowledge and common sense, I can fill in most of the missing parts without discombobulation. (By the way, I do the same thing, but to a much greater extent when using my rather limited Japanese.)

There are some schools of thought in language teaching that say you must limit the language you use to vocabulary and grammar that your students are already familiar with, in order not to confuse or befuddle them. But from the preceding paragraph, you can probably glean that I disagree. My approach is to deliberately insert irrelevant words and expressions that I know will be beyond the ken of my students, whilst keeping the important points at an appropriate language level. “Open your textbook to page 23 and do Exercise 1. Easy as pie!” Obviously, there's a little more to it than that simple example implies, but I think the concept is fairly clear.

A practical example of why this is important is a time when I slipped into my native Kentish accent and asked a student at the beginning of a class, “How are you today?” “Today” came out sounding like “t'dai”. Despite having been asked the same question hundreds of times previously, the student was completely baffled, and just kept repeating, “T'dai? T'dai?” It's perhaps not surprising with students who have been taught in the grammar/translation style, where every word is given equal importance and any unknown word must be hunted down in an English-Japanese dictionary.

Nobody, and I repeat NOBODY, should expect to understand 100%, in their own or any other language. The idea behind this ‘obscure language’ technique, which I've used several examples of in this article, is simple: Students need to concentrate on the things they understand and ignore those they do not, as long as they get the general idea. However, they should not be afraid to ask for clarification at times when they do not. After all, it's what native speakers do all the time.

NATTOKU! 8

リクツで納得! 学校英文法の「文法」

亘理 陽一(静岡大学)

素直にhardと言えなくて(Hard to say it's hard.)

“difficult”は言うのも書くのもnot easyな単語だが, 私は昔から“difficult”派だ。「派」というのは, “hard”との対比においてである。中学生の私には“hard”の意味がどうにもしっくりこなかった。その後“tough”がレパートリーに加わったため, “hard”が活躍の場を得ることは一層難しくなった。

“difficult”がbeやbecome, findといった動詞によらず「難しい」を意味するのに対して“hard”は, 例えばbeの後とworkの後で品詞と意味が異なるだけでなく, 同じ形容詞の場合でも意味が変わるからである。*NEW CROWN*(以下NC)で最初に出てくる“hard”は「難しい」の意であるが(NC1, p.90), “a hard rock”のような「かたい」の意味もある。2年生で“difficult”が登場し(NC2, p.44), さらに“hard”の「一生懸命に, 熱心に」という副詞の意味が登場してややこしくなる(NC2, p.75)。

私はここで, “hard”の3つの意味を貫く根源的な意味は…などと語義の講釈をするつもりはない。取り上げたいのは, 形容詞の限定用法と叙述用法の違いである(Huddleston & Pullum. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language.* Cambridge University Press.)。“a hard question”のように名詞を修飾するのが限定用法であり, It's hard to answer.のように補語の役割を果たすのが叙述用法である。

限定用法でしか用いられない形容詞(多義的な形容詞の場合には, ある意味)がある。“hard”の場合, “a hard worker”「働き者」や“hard evidence”「厳然たる証拠」などがそれだ。私にとってはこちらの用法が目立っていて, 「難しい」の意味では“difficult”にその地位を奪われていたということだろう。他にも“late”が私を苦しめた。Sorry I'm late.にしろnever too late to learnにしろ, “late”と言えば「遅い」である。“in the late 1900s”「1900年代後半に」は, 1900年代の「遅い」ほうということかと理解しても, “the latest information”「最新の情報」(NC3, p. 94)は, 「最も遅れた」という解釈ではあべこべになってしまう。これらは, “the late queen”「先の(亡くなった)女王」などと共に, 限定用法のみで用いられる意味なのである。

なぜ限定用法に限られるのか。それを考える一つの手がかりが時間的安定性ないしは限定性である(影山太郎(編)『属性叙述の世界』くろしお出版, 2012年, およびそこで引用されているGivón, 1984を参照)。名詞は時間的に最も安定した概念を表し, 動詞は動作や変化を表し時間的に最も限定される。もちろんこれは程度の差のある連続体で, 名詞“worker”が途中で働くのをやめて別の存在になる意味を表すことはないが, 名詞“trip”は一定の時間の幅で終了する行為を表すし, 動詞“work”が永遠に続く動作を意味するわけではないが, 動詞“know”が表すのは状態である。それでも典型的な名詞や動詞が両極に位置付けられるのは間違いない。そして重要なことは, 形容詞が両者の間に分類されるということである。

形容詞の中にも, 感情のような一時的な状態を表すものから, 物の特性のような比較的安定した特性を表すものがあるが, 叙述用法は一時的な特性を表し, 限定用法は時間的に安定した, 変わらない特性を表す傾向がある。I'm good.は次に聞けばI'm fine.になるかもしれないが, I will study hard to be a good engineer. (NC2, p.75)は場面によって良かったり良くなかったりするエンジニアを目指しているわけではないだろう。それは, 限定用法の形容詞が名詞句の一部の修飾語であり, 叙述用法の形容詞が述部の直接の補語であって, 何かを「修飾」しているわけではない動詞寄りの存在であることと関係する(「修飾」とは何かという根本的な問題は別の機会に取り上げることにしよう)。限定用法でしか用いられない形容詞(の意味)は, 一時的な特性というより, 名詞が表す概念の分類や順序, 部分集合を表すものである。

発行時に世の中がどういう状況となっているかは分からないが, タイトルは, 締め切りの連絡を受けてからの私の心情そのものでもある。もとより a hard workerでもない私は, 心穏やかではない日々の中で文法指導や文法の解説について考えるのがいかに“hard”かを今回痛感した。理屈が通らない, 理屈では割り切れない日々に少しでも納得あらんことを。

Question

小学校の英語の授業で大切にしていることはなんですか。
また,中学校でそれをどのように生かしていけばよいですか。

酒井 英樹（信州大学）

Answer

小学校では,児童の気付き,慣れ親しみながら身に付けていく過程,目的・場面・状況などの具体的な設定を大切にしています。これらをよく理解した上で,中学校においても生かしていきましょう。

小学校学習指導要領の外国語活動・外国語の目標は,「言語活動を通して,外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」とされ,身に付けるべき「知識及び技能」として,「外国語の音声や文字,語彙,表現,文構造,言語の働きなどについて,日本語と外国語との違いに気付き,これらの知識を理解するとともに,読むこと,書くことに慣れ親しみ,聞くこと,読むこと,話すこと,書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。」と書かれています。すなわち,小学校では,言語活動を通して学ぶときに,教え込むのではなく,児童が音声の特徴や文字の形,語句や表現の意味などに気付くことを大切にし,その上で理解させることとされています。実際に,小学校の授業では,児童の発言やつぶやきがたくさん見られ,指導者も,児童の気付きをクラスで共有しながら授業を進めていくことが多いです。

この気付く力は,中学校においても引き続き大切にしたいものです。中学校では,文法の理解が指導内容に加わります。文法の規則に関しても,教え込むのではなく,生徒が法則性などに気付けるよう工夫していくとよいでしょう。

先述の目標の中では技能面について,慣れ親しんでから基礎的な技能を身に付けるようにするとされています。「慣れ親しみ」とは,語句や表現を理解したり練習したりする指導を伴った上で,言語活動を行うことを意味します。一方,「身に付ける」とは,指導がなくても自分の力で言語活動を行えることを意味します。指導と共に英語を用いる経験を繰り返しながら,徐々に自分の力で英語を使えるようになる過程が大切にされています。

この学習過程は,中学校においても重要です。使用すべき表現等のモデルが常に示されている状態で言語活動をさせるだけでなく,徐々にモデルを無くしていき,自分の力だけで英語を用いることができるようにしましょう。

小学校では,コミュニケーションを行う目的や場面,状況などを具体的に設定して言語活動を行います。その際,どのような目的で伝えるのか,どのような相手に伝えるのかなどを具体的に考えることで,児童が意欲的に自己表現できるようにしています。また,聞いたり読んだりする際も,「こんなことを知りたいな」といった願いを持たせる指導が行われています。小学校学習指導要領の外国語の目標では,「思考力,判断力,表現力等」の能力として,「コミュニケーションを行う目的や場面,状況などに応じて,身近で簡単な事柄について,聞いたり話したりするとともに,音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり,語順を意識しながら書いたりして,自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。」とされています。すなわち,具体的なコミュニケーションを行う目的や場面,状況等と関連づけて,児童に考えさせたり,判断させたり,表現の仕方を考えさせたりすることが重要です。

中学校においても,コミュニケーションを行う目的や場面,状況等の設定が大切にされている点は同様です。中学校では,思考力や判断力,表現力をより育成するように指導していく必要があります。目的や場面,状況等に応じて,伝える内容と方法が変わりますし,聞いたり読んだりして得た情報の整理の仕方が変わります。目的や場面,状況等を意識して指導しましょう。

三省堂Webコンテンツのご案内

三省堂Webサイトでは，令和3年度から全面実施となる中学校の新学習指導要領や，
新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための資料，
英語教育に関する情報など，さまざまなコンテンツを掲載しております。
ぜひ，ご覧ください。

学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ，生徒の学びの保障を目的に，教科書の内容から「学校の授業で取り上げることが必要であると考えられる教材・学習活動」と「学校の授業以外の場での学習が可能であると考えられる教材・学習活動」とに区別して，学習活動の重点化の観点から，単元ごとの配当時数，主な学習活動などをご提案しております。地域や学校の状況に応じて，ご活用ください。

移行措置資料（暫定版）

令和3年度の教科書改訂に合わせた，文法事項・語彙の移行措置資料を作成いたしました。指導計画の作成や，文法事項および語彙の指導の検討にお役立てください。
※11月時点では，移行措置資料は暫定版を公開しております。

評価資料

令和3年度から始まる新しい評価について，何をどのように評価するのか？　評価の方法は？　など，評価の疑問点を今井裕之先生にご解説いただきました。新年度に向けて，ぜひご一読ください。

SDGs関連資料

この数年で，“SDGs”という言葉を耳にする機会が増えています。学校教育におけるSDGsの取り入れ方，令和3年度版*NEW CROWN*の題材とSDGsのゴールを組み合わせた例などを，山本崇雄先生からご提案いただきました。

研究会情報

国語・英語をはじめとした，研究会などのお知らせを掲載しております。ご自宅から参加いただけるオンラインセミナーについても，情報をいただき，掲載しております。また，研究会情報のご提供も，Webサイトより随時受付中です。

各コンテンツへの
アクセスは
こちらから

■ 学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料，研究会情報

三省堂教科書・教材サイト　https://tb.sanseido-publ.co.jp/

■ 移行措置資料（暫定版），評価資料，SDGs関連資料

令和3年度版*NEW CROWN*　特設サイト　https://tb.sanseido-publ.co.jp/03ncpr/

デジタル教科書・教材のご案内

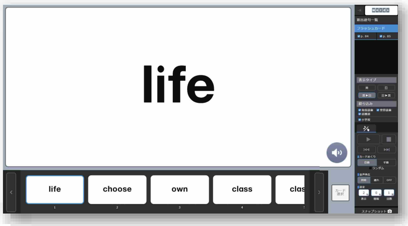
ことまなはGIGAスクール構想に全力で対応していきます!

Kotomana

指導者用デジタル教科書(教材)

充実のコンテンツとスムーズな操作感で、授業づくりをサポート!

フラッシュカード

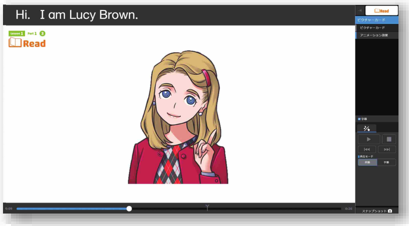


プラス 単語の絞り込み機能（発信語彙／受容語彙／小学校で学習した語彙）

Drill

プラス 教科書+αの補充問題

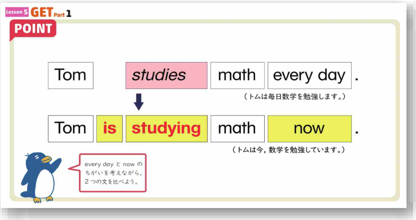
ピクチャーカード



プラス アニメーション効果・字幕機能

資料映像／モデル動画

各種アニメーション



アニメーションや資料映像も多数収録！

学習者用デジタル教科書・教材

ことまなビューアの機能で、学習をより快適に!

【学習者用デジタル教科書＋収録音声付き】

紙の教科書と完全同一の内容です。

【学習者用デジタル教科書・教材 All-in-One】

別売の生徒用リスニングCDに付属するスマホアプリと、学習者用デジタル教科書のセット商品です。

商　品	ライセンス形式	対応OS	ライセンス期間	価格(税別)
指導者用デジタル教科書(教材)(各学年)	学校内ライセンス	Windows 8.1/10 iOS13以降　Chrome OS	教科書刊行期間	各 80,000円
			年間	各 24,000円
学習者用デジタル教科書＋収録音声付き(各学年)	1ユーザー 1ライセンス	Windows 8.1/10 iOS13以降　Chrome OS	在学期間	各 800円
学習者用デジタル教科書・教材All-in-One(全学年セット)			年間	2,500円

※年間ライセンスの期間はご注文月の翌年月末までとなります。再度購入いただければ、履歴等を残して継続利用することができます。
※本商品をご利用いただける期間は令和３年度版中学校教科用図書の刊行期間(2025年3月31日まで)となります。
※本商品のライセンスにはWindows版/iPad版双方のライセンスが付属します。
※ご導入環境により、サーバ運用版/Webブラウザ版のオプションを提供いたします(サーバ運用版はWindows版のみ)。
※Chrome OSはWebブラウザ版のみの提供となります。

三省堂 教科書・教材サイト　https://tb.sanseido.co.jp/

三省堂　〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14　TEL 03(3230)9411(編集)・9412(営業)

TEN TEACHING ENGLISH NOW Vol.46
2020年11月16日発行
○編集・発行人：北口克彦
○発行所：株式会社 三省堂　○印刷所：三省堂印刷株式会社

三省堂